



年頭挨拶

北海道開発局長 高松 泰

明けましておめでとうございます。新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、東日本大震災という、これまでの想定をはるかに超える未曾有の災害が発生しました。改めまして、この災害で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、北海道、そして我が国の総合的な災害対策の推進に向け、決意を新たにす次第です。

北海道は、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」など大規模な地震・津波が起きる可能性が高い地域です。北海道開発局では、東日本大震災の教訓を踏まえた防災業務計画の全面的な見直しを行うとともに、新たな視点での津波対策の検討等を行っていますが、災害に強い地域の形成に向けて、引き続き、道路ネットワークの整備や各種施設の耐震化、危機管理体制の強化等に精力的に取り組めます。

また、四方を海で囲まれた北海道は、港湾・空港に機能障害が発生すると、救援活動や応急対策等にも大きな支障をきたす恐れがあります。さらに、冬期間には、流氷・河川結氷・積雪等による被害の拡大が懸念されます。北海道開発局は、これまでに培った経験や技術力を最大限に活かし、これら北海道固有の課題の解決に取り組めます。

国土交通省では、昨年11月、我が国が、直面する課題を克服し、明るい将来を築くため、「持続可能で活力ある国土・地域づくり」を進めるための基本方針を定め、国交省の総合力を発揮し一丸となって取り組むこととしています。

北海道開発局では、平成20年から、第7期の北海道総合開発計画の推進に取り組んでいます。この間、我が国が大きな時代の潮流の変化に直面する中、北海道のゆとりある空間と豊かな自然環境を活かし、我が国

の持続可能な社会経済づくりを先導し、政府の新成長戦略の推進にその役割を果たすべく諸施策に取り組んできており、これらは、「持続可能で活力ある国土・地域づくり」に沿った取組であると考えています。北海道開発局は、引き続き、農業・水産業等の生産基盤や道路・港湾・空港等の交通ネットワーク等の整備等を通じた諸施策の推進に取り組めます。

地域の建設産業は、社会資本の整備や維持管理を通じて生活環境の向上に寄与するとともに、多くの就業機会を提供するなど、北海道の経済・雇用に大きな役割を果たしています。さらに、災害時においては、迅速な災害対応、早期復旧の中心的役割を担っています。一方で、北海道においては、全国を上回る建設投資の急激な減少等により厳しい経営環境となっていると認識しています。

北海道開発局は、地域を支える建設企業が活力を回復し活躍できるよう、地域の課題やニーズを踏まえた入札・契約方式の改善及び建設産業支援についてきめ細かく丁寧に取り組むとともに、施工効率向上プロジェクト等の推進を図って参ります。

近年、公共投資を取り巻く環境には厳しいものがありますが、東日本大震災を契機として社会資本の整備の必要性が再認識されており、選択と集中を図りつつ、これまで以上に整備推進に取り組まなければならないと考えています。北海道開発局は、道内自治体や関係機関等との密接な連携を図りながら、北海道が持てる底力を十分に発揮し我が国が明るい将来を築けるよう、全力をあげて取り組んで参ります。本年も、皆様の御理解・御協力を賜りますとともに、御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、この一年の皆様の御健康と益々の御活躍を御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。